

# Argentina

アルヘンティーナ

No. 54



プエルト・マデロ地区 ブエノスアイレス

社団法人 日本アルゼンチン協会 会報

2009年7月

更なる友好増進に向けて ～会長就任のご挨拶～.....1	タンゴ名曲ものがたり (6).....10
アルゼンチン～革命(建国)200周年.....2	Resumen en castellano.....12
ブエノスアイレスから帰任して.....4	協会の活動報告
私とアルゼンチン	～「アルゼンチンと日本、そしてタンゴ」
～ある日本文化を通じて～.....5	～石川理事、交詢社にて講演～.....13
2009年前半のアルゼンチン情勢	～第53回通常総会～.....13
～亜国政治経済短信～.....7	～平成21年度理事会～新体制決まる～.....14
9月2日 日亜経済合同委員会開催予定.....9	～懇親会、他～.....14

## 更なる友好増進に向けて

～会長就任のご挨拶～

会長 友國 八郎

先般5月21日に開催された社団法人日本アルゼンチン協会の定時総会において、私は、法人会員及び個人会員の皆様のご推挙により、当協会の会長に選任され、就任致しました。昨年10月、逝去された土屋義彦前会長は、長年に亘り当協会の会長として、わが国とアルゼンチンとの友好関係の増進に多大のご功績を挙げてこられました。この機会に故土屋義彦前会長に対し、深甚なる敬意を表するとともに、その御遺志を引き継

ぎ、両国関係の益々の強化に微力ながら一身を傾注したいと考えております。

私は、長らく海運業界に籍を置く者ではありますが、日本の海運業界にとってもアルゼンチンとの関係は、歴史的に大変強いものがあります。20世紀に入り、日本の造船業は急速に力をつけて参りましたが、第二次世界大戦直前の我が国商船隊の中に当時の最新技術の粋を集めた名船が幾多名を連ねております。その代表的な



ものの中に「あるぜんちな丸」「ぶえのすあいれす丸」「らぶらた丸」の三船の名があります。アルゼンチンは、日本から最も長い航路ですが、そのアルゼンチンゆかりの三隻が未だに語り継がれていることをみても両国は遠くて、実は大変近い関係にあったことが偲べれます。

また、日露戦争の際、アルゼンチンがイタリアに発注していた「モレノ」と「リバダビア」の両装甲巡洋艦が日本に譲られ、「日進」、「春日」

として大活躍し、日本を勝利に導いたことは有名な逸話ですが、それ以後、日亜両国の海軍は、きわめて友好的な関係を維持しております。

アルゼンチンは、早くから日本からの移住者の受け入れに好意的であり、多数の日本人が夢を抱いて移住しました。勤勉で、高い道徳心を持つ日系人の存在は、アルゼンチンの発展に寄与するとともに、日本国の評価を高めています。

よく言われることですが、日本とアルゼンチンは、相互補完的な関係にあります。アルゼンチンは広大な国土を持ち、資源に恵まれています。他方日本は、人的資源を基礎にテクノロジーを発展させ、経済大国の道を歩みました。日本にないものがアルゼンチンにあり、アルゼンチンに欠けているものが日本に存在するという関係です。これを反映して、相互の交易や投資が長年に亘り進められて参りました。また、タンゴをはじめとする文化面の交流やスポーツなど多面的な結びつきも無視することはできません。

現在、世界各国は、かつてない困難に遭遇しておりますが、日亜両国は、以上に申し上げた相互補完関係



友國八郎会長

と長い交流の歴史を基礎に、未来志向の見地からそれぞれの特徴を活かしつつ相互に協力することによって、現在の困難を脱却することが必要であると思います。特に中長期的に見れば、世界は食料確保の大問題を抱えており、わが国にとって、世界の最大の食料基地であるアルゼンチンとの友好関係を維持することは、まことに重要な課題であると信じます。

日本アルゼンチン協会は、発足以来50年の歴史を通じ

て、両国の友好関係の強化に貢献してきました。現在も在日本アルゼンチ大使館と密接な連絡を取りながら、活発な活動を行っております。特に、現在日本に駐在しておられるダニエル ポルスキ大使は、極めて積極的に外交活動を展開しておられますが、当協会に対しても、大変なご協力を頂いております。この機会に、改めて深甚なる謝意を表するものであります。

明2010年、アルゼンチンは、革命200周年の記念すべき年を迎えます。そのための行事の準備が進められようとしておりますが、当協会としてもこれに對してできる限りの協力をしたいと考えております。

幸い当協会の会員の皆様におかれましては、日本・アルゼンチン関係の重要性を十分認識され、協会活動にご理解と積極的なご協力を頂いております。私としましては、会長就任を契機として、従来にもまして、両国の友好増進に努力する所存でありますので、会員各位の一層のご支援、ご協力をお願いする次第であります。

(ともくに はちろう：当協会会長)

## アルゼンチン～革命(建国)200周年 — (邦訳)

ホルヘ・A・オセラ

来年2010年は、アルゼンチンにとって革命200周年を祝う重要な年です。

1810年5月25日、アルゼンチンは、最初の自国政府を樹立しました。この5月革命に端を発した独立運動は6年続き、1816年7月9日にアルゼンチンは独立を宣言しました。

1810年5月25日は、我々の祖国が誕生した日であり、自由と独立が宣言され、アルゼンチンの豊かな天然資源を世界中の人々が享受できるように門戸が開かれた日です。

5月革命100周年の1910年には、経済的にも堅固となり、政治的にも革新した国となり、アルゼンチンの



社会基盤が強化され、日本を含む世界各国から数千人の移住者を受け入れました。これらの移住者は、国内産業、特に農牧業開発に貢献しました。

200周年を目前に控えた現在のアルゼンチンは、人権を尊重し、社会正義を重んじ、世界に連なる民主主義の定着した国です。私達の先達は、将来の国家の姿を描き、長期戦略を立てていたのです。従って、私達も次の100年考える必要があります。国の将来やその可能性を見据え、目標を達成するための方策を熟考するまたとない機会となるでしょう。

アルゼンチン政府は、「1810-2010 5月革命200周年記念事業担当部局」を設立することを決定し（法令No.278/2008）、同時に法令No.2016/2005により、記念事業の全体構想を策定するため、200周年事業委員会を設立しました。アルゼンチン外務省には200周年

実行委員会が設立され、アルゼンチンの在外公館に、200周年事業友好グループ（Grupo de Amigos）を設立することが提案されました。このたび日本アルゼンチン協会が日本で設立される友好グループへの参加を承諾して下さったことに感謝しております。今後、この友好グループが、日本に於ける200周年記念事業のイベントや記念事業活動を決定していくことになります。

両国間の経済の補完性及び政治的利害の共通性などを考慮すると、この事業は、必ずや将来に向けて両国関係を深めてゆく一助となるでしょう。

今から100年後の300周年の時には、日垂関係が一層深まり良好な関係を築き、両国の人々が幸せであることを願っております。

ホルヘ・A・オセラ  
公使 在日アルゼンチン大使館

## La Argentina del Bicentenario

Jorge Osella

El 25 de Mayo de 2010 la Argentina celebrará 200 años la instalación del Primer Gobierno Patrio, de esta forma comenzó el proceso de independencia que culminó el 9 de Julio de 1816. El 25 de Mayo de 1810 es el momento de nacimiento de nuestra Patria, momento en el cual se decidió por la libertad e independencia, momento en el cual se constituyó una nación que abrió sus puertas a todos los habitantes del mundo que aprovecharon las riquezas naturales que nuestra patria ofrecía. De esa forma se llegó al Centenario de la Revolución de Mayo en 1910 con un país progresista políticamente con solidez económica. A partir de ese momento se consolidó la base social de la Argentina al incorporar a miles de inmigrantes provenientes de todo el mundo, incluso Japón, que contribuyeron a la creación de una industria nacional y al desarrollo agropecuario.

Hoy ante la celebración del Bicentenario nos encontramos con una Argentina consolidada democráticamente con la vigencia plena de los derechos humanos, con justicia social e integrada al mundo. Así como nuestros antecesores visualizaron un país y definieron una estrategia a largo plazo, nos toca a nosotros proyectar el país al TRICENTENARIO. Se trata de una experiencia única, momento propicio para reflexionar sobre nuestro futuro, sus posibilidades y medios para lograrlo.

Este ha sido el ánimo del gobierno nacional al constituir la Secretaría Ejecutiva de la Conmemoración del Bicentenario de la Revolución de Mayo 1810-2010 (Decreto 278/2008), asimismo por Decreto nro 2016/2005 se ha creado el Comité Permanente del Bicentenario cuyo fin es la elaboración de los Lineamientos Generales del Plan de Acción del Bicentenario. En el ámbito del Ministerio de Relaciones Exteriores, Comercio Internacional y Culto se ha creado la Comisión Ejecutiva Bicentenario de la Revolución de Mayo 1810-2010.

Una de las propuestas de esta comisión ejecutiva ha sido la constitución, en las sedes de las representaciones diplomáticas, de un Grupo de Amigos del Bicentenario. Agradecemos a la Asociación Nipo-Argentina por haber aceptado a formar parte de este grupo que permitirá la identificación de actividades y proyectos para la celebración de este evento en Japón, que sin duda trascenderán esta fecha y podrán proyectar, a futuro, la relación bilateral teniendo en cuenta la complementariedad de las economías y la comunidad de intereses políticos. Hago votos para que el Tricentenario encuentren a la Argentina y a Japón cada vez mas unidas para bien y felicidad de los respectivos pueblos.

Jorge Osella  
Ministro Embajada Argentina en Japón.





# ブエノスアイレスから帰任して

遠藤 建也

3年10ヶ月の任期を終え、4月上旬ブエノスアイレスから帰任致しました。2005年6月の着任後4ヶ月で行われた総選挙で与党「勝利のための戦線」が躍進し、政権を磐石にしたキルチネル大統領は2006年年明け早々にIMFからの借入金を全額返済し、更に4月には暫く凍結されていたCCT(労使協定)を復活させ、政府の指導の下、各産業団体と関連組合の間で組合員層の賃上げ率が合意されるようになり、各進出企業は個別業績や業界を取り巻く環境に係りなく、一律の賃上げを実施することとなりました。2007年、2008年、と3年間連続で20%超の賃上げ率が合意される一方、為替は実質的にドルにペッグされ3.10ペソ程度で略々固定的に推移したため、人件費は近隣諸国対比で大幅に上昇しました。折からの資源・食糧パブの煽りもあり、内需は活況を呈し、実質インフレは亢進しました。この間内需関連業界或いは資源輸出関連の業界は好況を謳歌しましたが、パリクラブ債務問題未進展の中、大型プラントビジネスなどに取り組むことは難しい状況でした。アルゼンチン経済は、貿易黒字と一時財政黒字を維持し、上述の旺盛な内需にも支えられ、2007年の大統領選挙は無風状態でフェルナンデス大統領の勝利となりましたが、2008年に入り原油等商品相場の異常な高騰、農牧ストライキ、サブプライム問題表面化後の不安定な金融情勢とアルゼンチン国債の評価を巡る様々な変化の中で、9月初め大統領が懸案のパリクラブ債務返済意志の表明を行った、その僅か2週間後リーマン・ショックが発生し、その後はアルゼンチンのみならず近隣ラ米国のカントリーリスク指数(embt+)も大きく変化しました。政府は一連の国内向け経済活性化策を相次いで発表する一方、長年殆んど凍結されてきた公共料金の引き上げなど今まで聖域視してきた分野にも手を付け始めました。2009年に入り依然として先行き不透明な状況下、アルゼンチンを後にしてきてしまい、後任に申し訳ない気持ちもあります。勿論アルゼンチン並びに世界経済の今後は無根拠な楽観を許しませんが、今の状況はここ数年手を付けられなかった課題に取り組み、状況を打開する絶好のチャンスであるかも知れず、今後のアルゼンチンの行方に注目してゆきたいと思えます。

2005年着任後在亜日本商工会議所では、理事、副会頭、また会頭としていくつかの件に携わってきました。最初は「会議所発展企画委員会」でウェブサイトを作りました。世に無数にあるウェブサイトの内、利用者

がインターアクティブに使うタイプのもの、場所や物事の紹介型のものがありますが、会議所ウェブサイトは後者のタイプであり、目的は新しくアルゼンチンに赴任される方の参考にして頂くことが大きいのですが、開設に携わった者としては、いつもタイムリーな更新を行い、興味深い内容にして頂くことが常々課題と考えています。次いで会議所の忘年会の実行委員長をやりました。それまではホテルのサロンを借りてやるが多かったとのことですが、上述のように年々実質インフレが亢進していましたので、2006年は沖縄県人連合会館でやりました。広い会場でリハーサルも可能であり、沖縄料理やアサードも出せるとあって新機軸として定着し2007年、2008年も同じ会場で行われました。更に3年半の間会報の編集に参加しました。自分で書く記事、話題の人物に書いて頂く記事、アンケート集計を基に対談形式の記事を起こすなど、いろいろ取り組んでみました。仕事の後の気分転換という意味でも大変楽しかったのですが、最後の1年くらいは貧乏暇なしで、新たなアイデアも枯渇気味になってしまいました。

2006年の日亜経済合同委員会を始め日亜経済交流については、パリクラブ債務問題未進展という難しい状況下ではありましたが、駐亜日本大使館、駐日アルゼンチン大使館の大使始め多くの方々のご協力を頂き、来るべき発展期に向け交流を繋いで頂くことに少しでも係わる事ができたとしたら幸甚至極です。

私儀、この5月末で28年勤めた商社を退職し、6月より米国南部の繊維関連の化学品製造会社に勤務することとなりました。1998年8月に東京本店からインドネシアの関連会社に出向して以来、ヒューストン、ニューヨーク、ブエノスアイレスと10年8ヶ月の連続海外勤務をしている間に、本社は資源投資を中心に大きく様変わりし、最早私の働き場所はなくなりました。ブエノスアイレスという竜宮城から持ち帰った玉手箱を開けた状態です。新緑の日本を1ヶ月半だけ楽しんだ後、再び海外勤務に、それも裸一貫でチャレンジします。東京勤務以前のメキシコでの6年間の勤務と合わせ、米州勤務が長くなっておりませんが、豚インフルエンザや経済停滞を吹き飛ばし、新たな未来を築いて行きたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(えんどう たつや：在亜日本商工会議所  
第60事業年度前会頭 アルゼンチン三井物産前社長)



# 私とアルゼンチン

～ある日本文化を通じて～

遠矢 浩子

私がアルゼンチンを知ったのは当協会主催のスペイン語講座でした。先生はリナ・ルビオレイナ（元駐日アルゼンチン総領事夫人）さんで、アルゼンチンの広大な自然、氷河、滝の話聞き一度行ってみたいなど思っていました。2004年から2006年の2年間JICAのシニアボランティアとしてブエノスに住み、日亜学院で働いたのもこのスペイン語講座によるところが大きいと思っています。

今は和紙アート作家として活動していますが日亜学院では日本の理数科教育の良いところを取り入れたいとの要望でJICAから派遣されました。アルヘンティナーの先生相手にスペイン語でアルゼンチンと日本の教育の違いを説明するのは大変で、国際的にも日本の算数能力が低下している時で、フランスのカリキュラムを参考にしている先生たちに急には受け入れてもらえませんでした。

日本語とスペイン語の語順の違いで九九表を生徒に説明する時も逆の考え方で、先生達は子供の時から教育された方法で考えたがり、私も言葉の違いで思考も変わると理解するのに時間がかかりました。一年が過ぎた頃、ホンデュラスでJICA主催の算数教育を考える会に日亜学院の中等部の数学教師と校長のノラさんと3人で参加しました。中南米9カ国の先生が集まって、授業のカリキュラムの作り方、教え方、進め方などをお互いの国で発表し、模擬授業を見て日本の教育

を取り入れている国の成功例を聞きました。それ以降、校長先生が理解をしてくれて、仕事がスムーズに行ったことも懐かしく思い出します。

このような縁で、2008年11月にブエノス・アイレス市内パレルモ公園の日本庭園で「和紙文化紹介2008 in アルゼンチン」を小川和紙継承会のメンバー10人と実施してきました。染め紙、紙漉きのワークショップと展示に多くの方が来園してくれました。展示の入場者は3日で約1800人、ワークショップも予想以上の参加者で、日本から持ち込んだ和紙が無くなってしまい早めに切り上げました。和紙の美しさを、強さを理解してもらったと思っています。日亜学院でも染め紙を7年生に体験してもらい文化祭で飾られ喜んでくれたと聞きました。

この縁でデアリア先生から、今年の2月に17人を連れて来日すること、ただ日本を観るだけでなく和紙文化体験をしたいとの連絡をもらいました。場所を借りるには経済的なこともあり、書家の小熊さんの紹介でマスマの社長さんの無償の協力を得ることができ無事終了し、喜んで帰国されほっとしています。大使館のホールへ・オセーラ公使夫妻に亜国への紙漉き道具の持ち込みの書類作成に協力してもらったのははじめ、多くの人の協力とつながりに感謝しています。

（とおや ひろこ：当協会賛助会員）



後列左端 遠矢浩子さん～和紙絵ワークショップで



ブエノスアイレスには日本人学校の他に、在亜日系の方々が創られた「日亜学院」があります。今年の2月に、日亜学院の日本語コースの生徒17名が観光と和 문화体験のため訪日しました。

当協会のスペイン語講座の受講生の一人、遠矢浩子さん（賛助会員）が日亜学院と関わりがあり、その来日ニュースを知らせて頂きました。その歓迎行事の一つに、協会事務局長として出席できましたので、その文化交流の様子について下記レポートします。

日亜学院グループは、2月6日から17日までの11日間の滞在で、関西方面旅行などもあり、そのうちの一日（2月16日）の和紙絵と書道のワークショップに参加しました。

JR大塚駅近くの「マスミ」という掛軸や屏風など表装材料のお店の中で、午後5:30から8:00まで「和紙絵」と「書道」のワークショップが催されました。

遠矢さんは和紙アート作家で講師役を務められました。

和紙絵とは、ちぎり絵のようなもので、初めての人も気楽に体験できます。アルゼンチンの18才から

30才までの生徒さんと3人のお母さん達は、遠矢さんのスペイン語による説明を聞きながら、非常に熱心に製作に取り組み、見事な出来栄でした。

和紙絵・書道の体験後、同じ会場で、交流の為の懇親夕食会、和気あいあいと日本語とスペイン語の飛び交う中で開催されました。

引卒者デアア先生の挨拶と、協力してくださったマスミの横尾社長の挨拶の後、来日生徒さん達が一人一人日本語で自己紹介し、来日感想などを披露しました。中でも印象的だったのは、アルゼンチンの若い女生徒さんの一人が、この「和紙講習」も含め、日本人のやさしいもてなしに感極まって涙を流しながら感謝の言葉を述べたことです。日本文化を伝えようとする日本人の真摯な姿勢が、初めて訪日したアルゼンチン人の素直な気持ちに訴えたのでしょう。夜10時ごろ懇親会は無事終了し、大塚駅でグループとの別れを惜しんだ次第です。

（ふじむら のぼる：当協会事務局長）



書道ワークショップで作品発表





# 2009年前半のアルゼンチン情勢

## ～亜国政治経済短信～

荒尾 保一

世界的な経済危機の中で、アルゼンチン経済も大きな影響を受けるとともに、アルゼンチンの政治情勢も、6月28日の上下両院の中間選挙に向け一層の混迷の度を深めている。2009年前半のアルゼンチンの政治及び経済の状況を概観する。

### (1) 不況の進行と緊急経済対策

自動車産業をはじめとする製造業や亜国経済を牽引してきた建設業などの産業の不振、個人消費の減速、資金の海外逃避などにより、2008年第3四半期の実質GDPは、前年同期比4.9%の増、前期比0.3%の増に止まり、2003年第1四半期以来の低い伸び率となった。これにより2008年通期の実質GDPの伸び率は、7.0%となった。

アルゼンチン経済の最大の問題点であるインフレ率は、2008年通期で7.2%であったとINDECは発表しているが、民間アナリストは、20%前後であったと見ている。

貿易も2008年12月、輸出がマイナス24%、輸入がマイナス11%、貿易黒字はマイナス52%と大きく落ち込んだ。

このような経済の緊急事態を受けて、フェルナンデス大統領は、12月4日、緊急経済対策を発表した。

その内容は、132億ペソの低利融資の実施で、内訳は、消費者向け(35億ペソ)、自動車購入者向け(37.5億ペソ)、農牧業者向け(17億ペソ)、産業向け(12.5億ペソ)、中小企業向け(30億ペソ)である。また、所得税の減税も含まれている。

引き続き、同月15日、エネルギー、運輸、住宅等の分野で1,100億ペソの公共事業を行う計画を発表した。

### (2) 旱魃対策

昨年来、亜国の中東部のブエノスアイレス州、コリエンテス州、エントレリオ州、チャコ州、コルドバ州、ラパンパ州などが70年来といわれ大旱魃におそわれ、少なくとも80万頭の牛が死に、穀物の収穫も大幅に減少した。このため、農産物の輸送業者も大打撃を受けた。

フェルナンデス大統領は、2009年1月、農牧緊急事態宣言を出し、被害を受けた生産者に対し、所得税の納税期日を1年間延長する大統領令を公布した。また、農家に対する融資制度を創設した。農牧業界では、この措置では不十分であるとして、対策の上乗せを求めたが、容れられなかった。

### (3) 農牧業界との対立

2008年3月の穀物等の輸出課徴金の税率引き上げに端を発した政府と農牧業界との対立は、同年7月、コボス上院議長・副大統領の決定により、税率引き上げの政府案が否決され、一応収束の形となった。

その後、政府と農牧業界の交渉が断続的に行われ、一時は農牧業界が大統領の提案に意義を認め、抗議活動の一定期間の中止を決めるという場面もあった。しかし、その後の交渉の進行に連れ、農牧業界の不満が強まった。

本年3月、政府は、新鮮果実や野菜の税率を50%引き下げるとともに、トウモロコシ及び小麦の税率引き下げを提案したが、農牧業界が最も望んでいる大豆及びヒマワリの税率引き下げは行わないと政府が発表したため、農牧業界は激しく反発し、抗議活動に入った。これを含め、7回に亘りストを含む抗議活動を行った。

また、フェルナンデス大統領は、大豆及び同加工製品に対する輸出課徴金について、その30%を当該州政府に交付するための「連邦連帯基金」を設立することとし、これを通じて、輸出課徴金に対する州知事の支持の取り付けを図った。このような交渉と抗議の連続の中で、農牧業界のフェルナンデス政権への支持は著しく低下した。また、農牧業界に基盤を置く州知事のなかにも、フェルナンデス政権への批判を強める知事もいて、政局の動向に影響を与えているように思われる。

### (4) アルフォンシン元大統領の逝去

2009年3月31日、アルフォンシン元大統領が逝去された。享年82歳。アルフォンシン元大統領は、1983年、急進党党首として、民政移管後の最初の大統領に選出された。大統領に就任するや、直ちに、軍政時の最高権力者に対し一般法廷において裁判を行うとともに、軍が政治に関与することを不可能にさせた。他方、上官の命令に止むを得ず従わざるを得なかった軍関係者や警官を赦免する法律を制定し、国民和解の路線を推し進めた。

政権末期に大インフレを招くという事態も生じたが、亜国の民主主義の定着に大きな足跡を残し、「民主化の父」として、国民の尊敬を集めた。4月2日に行われた国葬には、その清廉な生涯を知る多くの市民が5月大通りの12ブロックを埋め尽くし、ペロン元大統領の国葬を上回る市民の見送りを受けながら、レコレタ墓地に埋葬された。



## (5) 上下両院中間選挙の繰上げ実施

### (a) 選挙繰上げ実施の決定

フェルナンデス大統領は、3月、突然10月25日に行われることが定められている上下両院の中間選挙を6月28日に実施すると発表した。その理由は、「世界が瓦解し、その破片がわが国を直撃するなかで、10月まで選挙を延引することは自殺行為である」とするものであった。

この方針に基づき、繰上げ実施のための選挙法改正案が議会に提出された。議院内閣制の下では、時の政府の方針により議院を解散し、任期満了前に選挙が行われることは通常見られることであるが、大統領制の下で、大統領の意向により選挙の時期を変更することについては批判も多く、選挙法の改正案が議会を通過するか否か、かつての輸出課徴金法案のごとく、成立を危ぶむ声もあった。しかし、かなりの票差で上下両院とも通過し、6月28日に選挙が繰り上げて実施されることが決定した。

フェルナンデス大統領が、キルチネル前大統領の意向を受けて、早期選挙に踏み切った背景としては、最近の同政権への支持率の低下を危ぶむ事情があったと見られる。

3月に行われたカタマルカ州の議会選挙で、キルチネル前大統領が自ら乗り込み、積極的な応援を行ったにもかかわらず、ペロン党は急進党に第1位の座を奪われる結果となった。その他の地方選挙でもキルチネル派の苦戦が続いた。

また、中央政界では、野党のマクリ ブエノスアイレス市長 (PRO共和国提案代表)、ペロン党反キルチネル派の有力下院議員ソラ氏 (前ブエノスアイレス州知事) 及び有力下院議員デ ナルバエス氏が選挙戦線の提携を行うと発表した。更に、ペロン党有力議員レウテマン上院議員、ロメロ上院議員、オベード下院議員 (元サンタフェ州知事) 等数名の議員がキルチネル派の「勝利のための正義戦線」(Frente Justicialista para la Victoria: FJpV) から離脱した。

このようなFJpVの勢力の減少の傾向が進行しないうちに、選挙に踏み切ったのではないかと観測も出されている。

### (b) ブエノスアイレス州の動き

今回の中間選挙で改選される議員の数は、上院では24名、下院では127名である。上院は、カタマルカ、チュブ、コルドバ、コリエンテス、ラバンパ、メンドサ及びサンタフェの8州の各州それぞれ3名の合計24名が改選される。下院は、ブエノスアイレス州が35名、コルドバ及びサンタフェ州が各9名で、その他の20州で61名が改選される。

したがって、ブエノスアイレス州の選挙結果は、国政に極めて大きな影響を及ぼすこととなる。これを重視したキルチネル前大統領は、自ら下院議員選挙に立

候補することとし、「勝利のための正義戦線」の候補者リストの第1順位に搭載することとなった。更に、第2位には、シオリ同州知事が現職のまま立候補した。第3位には、女優のナチャ・ゲバラ、第4位には、マッサ内閣首班が搭載されている。

シオリ州知事やマッサ首相は、当選しても州知事や首相を辞任することではなく、当選を辞退すると見られている。このような名目候補 (Candidatos testimoniales) の立候補は憲法に違反するとの訴えが野党から出されたが、ブエノスアイレス州選挙裁判所及び連邦選挙裁判所は、このような立候補は、憲法に違反しないと認めた。このように、現職の首長を立候補させる動きは各地に見られ、得票率獲得の戦略となっている。

他方、ソラ、マクリ及びデナルバエスの連合UNION/PROが選挙協力を行っている。また、2007年の大統領選挙で善戦したエリサカリオと急進党コボス派の連合も立候補者を出し、三巴の選挙戦を繰り広げている。

選挙結果については、多くの調査機関が世論調査の結果を発表しているが、多くはFJpVが他派を3~5%の差でリードしているとしている。しかし、最近、有力な調査会社Poliquia社は、UNION-PROの支持率が27,6%で、FJpVに3,1%の差をつけてリードしているとの調査結果を発表し、注目を集めている。

地方の州では、農牧問題の影響でFJpVの伸び悩みが見られ、ブエノスアイレス州での勝利がフェルナンデス政権の多数派維持の必須要件とみられるだけに、同州の選挙結果が注目を集めている。

(この会報が発行される頃には、選挙結果が判明しています。詳細は、当協会ホームページの掲示板をご覧ください。)

## (6) 最近の経済の動向

IMFは、4月、世界各国の成長率予測を発表したが、その中で、アルゼンチンの2009年及び2010年の成長率をそれぞれ1,5%及び0,7%と予測した。これに対し、カルロスフェルナンデス経済相は、IMFの予測は、信頼できないエコノミストのデータに基づくもので、受け入れられないとのコミュニケを発表した。同相は、2009年の垂国経済は、内需、スーパーの売り上げ、賃金、税収、国際商品価格などあらゆる面で健全な成長を遂げていると説明した。

政府の発表によると、2008年の財政収支は、32,528百万ペソ (9,228百万ドル) の黒字で、前年比26,5%の増であった。また、今年5月の貿易黒字は、2,281百万ドルで、前年同月比120%の増であった。

このような経済指標の改善の兆しや米国における株価上昇を好感し、株価の動向を示すメルバル指数は、今年6月初旬、昨年末に比べ50,5%の上昇となった (日経)。カントリーリスク指数 (EMB+) も改善している。



これらの指標が亜国経済の回復の前兆となるのか否か、国際商品価格の上昇が見られる中で、今後の経済の動向が注目される。

#### (7) 6月28日 中間選挙結果

6月28日の中間選挙で、政権与党は大敗し、上下両院とも与党が過半数を割り込む結果となった。Nacion紙の報道では、政府与党のFJpVの獲得議席は102となり、同派以外の親キルチネル派の12議席を加えても合計114議席で、野党の143議席を大きく下回る結果となった。また、上院でも、FJpVは36議席に止まり、過半数の37を1議席割り込んだ。注目されたブエノスアイレス州では、キルチネル前大統領とシオリ同州知

事を前面に立てて必勝を期したが、デナルバエス等のUNION-PROに約2%の差で、第1位を譲ることとなった。この選挙結果を受け、キルチネル前大統領は、正義党（ペロン党）総裁を辞任し、後任にシオリ知事を指名した。しかし、ペロン党内にこれに反対する意見があり、総裁は未定である。

フェルナンデス大統領は、記者会見で、今後の統治にはコンセンサスが必要であり、あらゆるセクターとの交渉が重要であると述べたが、今後の政権運営にこれがどのように反映するのか、注目される。

(あらお やすいち：当協会常務理事)

## 9月2日 日亜経済合同委員会開催の予定

### ～日亜経済委員会実務担当者会合にて～

6月16日、日本商工会議所において、日亜経済委員会実務担当者会合が行われ、当協会から荒尾常務理事が出席した。

この会合において、事務局より、本年9月2日、東京において、日亜経済合同委員会を開催する方向で準備を進めている旨の報告があり、これについての意見交換が行われた。当日の会議の状況は、次のとおり。

(1) アルゼンチン大使館ホールへA オセラ公使より、最近のアルゼンチン情勢のブリーフィングがあった。このなかで、同公使は、アルゼンチンも世界金融危機の影響を受けているが、この数年の財政及び貿易の黒字や内需が相対的に堅調なことなどにより、世界の他の諸国に比し、亜国経済は良好な状態にあると説明した。

また、日亜関係も、2005年から2008年の間に、貿易が2倍に伸び、投資も順調に進んでいると説明し、将来志向の関係強化が必要であると述べた。

また、9月にタイアナ外相が訪日する予定であると述べた。

(2) 外務省高杉優弘南米課長より、6月28日に行われる上下両院の中間選挙を中心にアルゼンチンの政治状況の説明があった。

9月に、アジア中南米協力フォーラム (FEALAC) が東京で開催される予定であり、日本が議長を務める。このフォーラムの中南米側の

議長は、アルゼンチンであるので、タイアナ外相が来日する予定である。この機会に日亜交流シンポジウムを開く予定であると説明があった。

(3) 経済産業省本間英一中南米室長より、世界経済危機下の経済強化対策について説明があり、そのなかで、昨年日本とブラジルの間で貿易投資促進委員会に関するMOUが結ばれ、活動を開始しているが、これを参考にして、アルゼンチンとの間の新たな産業協力の方向を協議中である旨説明があった。

(4) 日亜経済委員会事務局（日本商工会議所）より、去る4月に日本側事務局がアルゼンチンを訪問した際、亜側日経済委員会及びアルゼンチ外務省と会議を行ったが、亜側より9月に日亜経済合同委員会を開催するよう強い要望があった。また、ポルスキ駐日大使からも、9月のタイアナ外相訪日の機会に、アルゼンチンから民間の大型ミッションが来日するので、ぜひ合同委員会を開催するよう強い要望があった。

このため、委員長とも協議の結果、9月2日午前中に、日亜経済合同委員会を開きたいと考えているので、協力をお願いしたいとの説明があった。出席者より、委員会を開くのであれば、何らかの成果が得られるよう努力することが必要であるとの意見が出され、今後協議することとなった。





# タンゴ名曲ものがたり (6)

## ～オルガニート・デ・ラ・タルデ～

石川 浩司

カルロス・ディサルリ楽団が残した名演奏「オルガニート・デ・ラ・タルデ」(たそがれのオルゴール)をご存じだろう。出だしがディサルリ自身のピアノ・ソロでオルゴールの音をタップリと聞かせる。この部分を聴くと、このオルゴールというのはよく女性が机上に置いて宝石などを入れている小型の楽器を思い起こすのだが、実際はこれはオランダなどで現在も使われている「ストリート・オルガン」the barrel organを指している。大型の楽器で馬車くらいの大きさがある。内部にロール紙に刻んだ楽譜を内蔵し空気を送って演奏する。アルゼンチンではこのような大型機を見たことがないが、路上据え置き型、あるいは肩に背負って移動するハンディな楽器は以前かなり普及していた。

この曲は今から50～60年前には「辻音楽師は行く」と意識されていた。いまではめったに歌われることはないが、この曲はもともとは歌のタンゴである。1924年のディスコ・ナショナル第1回タンゴ・コンクールに第3位で入賞している。

作詞はタンゴ初期の劇作家ホセ・ゴンサレス・カステイジョ、作曲はその息子で後に作詞家としても大成

するカトゥロ・カステイジョ。歌詞の大要は以下の通りで、いかにも当時のブエノスアイレスの下町の風景を彷彿とさせるテーマ。一連の物語性は見事なものでこれを「辻音楽師は行く」とした往時の意識には脱帽するしかない。

(歌詞の大要) みすばらしい老人のゆっくりとした歩みにつれてたそがれのオルガニートは破れガラスのコンチェルトで場末を音楽で満たす。その後ろを片足の男が義足でタンゴのリズムを刻みながらついて歩く。なんでも知っている老女たちが話すところでは、あの老人には一人の自慢の娘がいた。片足の男はその恋人だった。踊らせたならその右に出るものはないほどの足自慢。だがある日、よそ者がやって来て男のパートナーと片足を奪い去った。それ以来父親と恋人は場末を探しまわっているのだと……。不実の娘をタンゴのリズムで。

(歌としての参考レコード) カルロス・ガルデル(EL BANDONEON EBCD53)

ロベルト・ルフィノ Microfon C-83) スサーナ・リナルデイ (Diapason DP155280)

Diapason D



ハンディ式



以前フロリダ通りに毎日出店していた名物男の据え置き型





この曲の楽譜表紙

(コンクールの裏話) 先述の通りこのタンゴは第1回のコンクール入賞曲なのだが、この種の催しにはつきもののドロドロした裏話もある。以下はその一つ。

タンゴ・コンクールというのは既に1910年代にもあったが、このコンクールは大がかりで、まず作者自身が自筆の新曲を事務局に登録する。事務局が事前に審査して候補作を定め、コンクール会場でオデオン専属楽団が連続演奏する。入場者はこれを聞いて気に入ったタンゴに投票し入選作を決める。上位入選作はオデオン系楽団により録音され発売される、というシステムティックなものだった。第1回は24年10月受付、25年1月31日スプレディッド劇場でコンクールが行われロベルト・フィルポ楽団が候補作を演奏した。投票結果は

第1位「センチミエント・ガウチョ」  
フランシスコ・カナロおよびラファエル・カナロ作曲  
ファン・カルソ作詞

第2位「パ・ケ・テ・アコルデス」  
フランシスコ・ロムート作曲  
アンドレス・セイトゥーン作詞

第3位「オルガニート・デ・ラ・タルデ」  
カトゥロ・カスティジョ作曲  
ホセ・ゴンサレス・カスティジョ作詞

第4位「コン・トーダ・エル・アルマ」  
ファン・ファリーニ作曲  
アルベルト・バカレサ作詞



近年センテネーラ通りに掲出されたこの曲のイメージをもとに描かれた壁画

第5位「アミガーツ」  
ファン・デ・ディオス・フィリベルト作曲  
フランシスコ・ブランカッティおよび  
ファン・ベリーチ作詞

が入っている。

父親のホセ・ゴンサレスは後にこんなことを話している。「私は息子のタンゴをすこしでも上位にあげようと思い毎日劇場へ行って入場券を購入した。それは息子のタンゴの地位を向上させた反面、私の財布は軽くなって行った。最終日、私は借金をして切符を買って行ったのだがもうチケットはほんの少ししか残っていなかった。主催者が豊富な資金にもものを言わせて前売り券を買占め、自社の販売政策にも適合するカナロとロムートの作品の後押しをしていたんだ。それで第1位はカナロの「センチミエント・ガウチョ」第2位はロムートの「パ・ケ・テ・アコルデス」が入賞するようになっていたわけさ……」

(いしかわ ひろし：当協会理事)

石川 浩司理事は、上記原稿を6月早々にご投稿頂きましたところ、去る6月23日未明に他界されました。永きに亘り協会活動にご尽力頂き、また常日頃「会報」への投稿をお心に掛けて頂き感謝に堪えないところ、この計報に接し、本当に残念でなりません。

石川理事のご冥福をこころよりお祈り申し上げます。





# Resumen en castellano

por Irene Gashu

## **Para estrechar aún más los lazos de amistad (p. 1)**

por Hachiro Tomokuni, Presidente de nuestra Asociación

Hace muchos años que existe entre Argentina y Japón una estrecha relación de amistad. Tres barcos japoneses de avanzada llevaron nombres argentinos: Argentina Maru, Buenos Aires Maru y La Plata Maru. También es famosa la historia de cómo gracias a la cesión por parte de Argentina de los barcos Moreno y Rivadavia a Japón, éste obtuvo la victoria sobre los rusos. Aprovecho esta oportunidad para agradecer al Embajador Daniel Polski por su permanente apoyo a nuestra Asociación.

## **De regreso de Buenos Aires (p. 4)**

por Tatsuya Endo, ex Presidente de Mitsui Argentina S.A.

Viví 3 años y 10 meses en Buenos Aires. En lo económico, fueron años agitados. Hay que resolver numerosos problemas pendientes durante largo tiempo. Fui sucesivamente Miembro de la Comisión Directiva, Vicepresidente y Presidente de la Cámara Japonesa de Comercio e Industria en la Argentina. Iniciamos un sitio en la red. Desde junio, empecé a trabajar en una empresa de fabricación de productos químicos.

## **Mi relación con Argentina a través de una expresión de la cultura japonesa (p. 6)**

por Hiroko Toya

Mi interés por Argentina surgió cuando empecé a tomar el curso de español de esta Asociación. De 2004 a 2006, estuve en Buenos Aires como voluntaria senior de JICA, enseñando matemática en Nichia Gakuin. Ahora me dedico al arte del washi o papel japonés. En 2008 presenté la cultura del washi en el Jardín Japonés de Buenos Aires y en febrero de este año, 17 alumnos de Nichia Gakuin visitaron Japón y participaron en un taller de pintura y caligrafía con washi.

por Noboru Fujimura

En representación de nuestra Asociación, asistí al

taller en el que la Sra. Toya explicó en castellano a los estudiantes y 3 madres, los pasos a seguir. El resultado fue excelente. A la noche, se realizó una fiesta. Cada uno de los estudiantes se presentó a sí mismo en japonés.

## **Argentina en el primer semestre de 2009 (p. 7)**

por Yasuichi Arao

1) La Presidenta Cristina Fernández anunció medidas para enfrentar la crisis financiera global. 2) También adoptó medidas para ayudar a los afectados por la sequía. 3) Bajó considerablemente el apoyo del sector agrícola ganadero a la Presidenta. 4) El 31 de marzo falleció Raúl Alfonsín. 5) El 28 de junio habrá elecciones legislativas. Los resultados serán publicados en la página web de nuestra Asociación. 6) El Ministro de Economía Carlos Fernández rechazó las proyecciones del FMI.

## **Comité Mixto Empresario Argentino-Japonés (p. 9)**

por Yasuichi Arao

El 16 de junio se realizó un intercambio de opiniones en la Cámara Japonesa de Comercio e Industria en preparación de la Reunión Plenaria del Comité Mixto Empresario Argentino-Japonés que tendrá lugar en Tokio el próximo 2 de septiembre. En dicha ocasión, hablaron el Ministro Jorge Osella de la Embajada Argentina, el Sr. Masahiro Takasugi del Ministerio de Relaciones Exteriores de Japón y el Sr. Eiichi Honma del Ministerio de Economía, Comercio e Industria de Japón.

## **Serie Melodías Memorables Parte 6 (p. 10)**

### **Organito de la tarde**

por Hiroshi Ishikawa

Muchos recordarán la magnífica interpretación de esta melodía por la orquesta de Carlos DiSarli. La letra pertenece a José González Castillo y la música a su hijo, Cátulo Castillo. En 1924, obtuvo el Tercer Premio en el Primer Concurso de Tangos del Disco Nacional. Su letra narra con destreza el ambiente nostálgico de Buenos Aires de aquella época.



# 協会の活動報告

## 1. 「アルゼンチンと日本、そしてタンゴ」

～石川浩司理事、交詢社にて講演～

さる4月24日、石川浩司理事は銀座「交詢社」において「アルゼンチンと日本、そしてタンゴ」という題で約1時間の講演を行った。交詢社は明治初年福澤諭吉によって設立された日本最古の社交クラブで2千人を超える会員が種々の活動を行っているが、なかでも毎週金曜日に行われる午餐会とそれに続く講演会が有名で当日も大食堂定員一杯の約120名が出席した。

今回は前半30分は映像を使って①アルゼンチンはどういう国か②日本とアルゼンチンの歴史的関係③アルゼンチンの現況④これからのアルゼンチンとの関わりを説明したが、参加者に財界人、学者、ジャーナリスト関係者が多いこともあって同国訪問経験者が4割近く出席しており、関心は同国の現状と今後に集中していた。21世紀に入ってからの経済成長率が7～9%を続け、BRICsに続くVISTA5カ国の一つに数えられていること、今後「世界の穀倉」として中国をはじめとする開発の波が巻き起こっていることなどが話題となった。

後半は一転して「ラ・クンパルシータ」「アディオス・ノニーノ」「エル・ディア・ケ・メキエラス」「ア・エバリスト・カリエゴ」など平素はみることが出来ない貴重なタンゴの映像を楽しんだ。



石川理事は、去る6月23日未明に逝去されました。  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 2. 第53回通常総会

第53回通常総会が今年もポルスキ駐日大使のご好意により、在日アルゼンチン大使館小講堂に於いて5月21日(木)午後5時から開催された。

冒頭、友國副会長は、昨年10月に逝去された土屋前会長に対し哀悼の意を表し、黙祷を提案、全員で黙祷を捧げた後、代行して通常総会の開会を宣言した。

現在の登録正会員は、法人会員23社、個人会員81名で議決権総数は104。当日出席の正会員は32名、委任状提出が46名、合わせて出席総数78名で過半数を上回り、定足数を満たしていることが確認された上、友國副会長が議長を務め、総ての議案が滞りなく承認・可決された。

本年度は、理事・監事の改選期に当たり、再任を含め34名の理事と2名の監事が選任された。これ等新役員の氏名は、登記完了次第協会ホームページに掲載します。

平成20年度活動報告では、年度末の会員総数が正会員104名(法人23社、個人81名)、賛助会員124名、計228名で、昨年度比法人2社減、個人1名減が報告された。協会会務としては、通常総会、理事会の開催、各種セミナー参加、土屋前会長逝去、豊田評議員の逝去に係る報告、並びに原前事務局長の辞任により、後任に藤村登氏が就任し、これに伴い事務所業務対応時間の変更(平成20年11月1日から月、水、木曜日の13:00~17:00)が報告された。

特別事業として、昨年8月7日、ポルスキ駐日大使の特別のお計らいにより、横浜港に來航のアルゼンチン海軍練習艦「リベルタ号」(アルゼンチン巡回大使)に当協会会員44名が乗艦、見学し、乗組員との交歓の機会を得たこと、文化活動としては、通常総会後の大使公邸での懇親レセプションが160人を超える参加者で盛況であったこと、長田小学校(茨城県境町)での第20回目「アルゼンチンの日の集い」にポルスキ大使他大使館関係者と共に参加したこと、8月5日上記「リベルタ号」艦上での歓迎式典、日亜修好110周年を祝う艦上パーティに木島理事長はじめ協会幹部が参加したこと、恒例、好評の第12回「タンゴ音楽の集い」を協会主催で開催し、盛況であったことが報告された。また、スペイン語講習の実施、「会報」、「協会だより」の発行、ホームページのアップデートの実施が報告された。

本年、平成21年度活動方針に関して、木島理事長が、前年度までの活動を基盤として、さらなる展開を目指す旨の方針を披歴した。具体的には、(1)会員数増大





第53回通常総会

に従来にも増して注力する、(2) スペイン語講座の拡充、(3) 会報、協会だよりの更なる充実、(4) 公益法人新制度問題に適切に対応、(5) 在日アルゼンチン大使館との連携に引き続き務め、文化交流の増進を図る。

決算・予算関係では、平成20年度収支決算結果は、会費収入の減少とスペイン語講座の生徒数減少による収入減で399,065円の赤字となったこと、また、平成21年度予算は、スペイン語講座生徒数の増加に努めること等図り、90,000円の黒字を見込む予算案が提示された。決算・予算共に満場一致で可決・承認された。

### 3. 平成21年度理事会 —新体制決まる

5月21日、第53回通常総会終了後に、同総会にて選任された重任、新任の理事により平成21年度第2回理事会が開催され、互選により以下の通り役付理事が決定され、新体制がスタートした。

会長	友國 八郎	新任
副会長	木島 輝夫	重任
理事長	木島 輝夫	(兼任) 重任
常務理事	中野 恵正	重任
同上	荒尾 保一	重任
同上	鶴岡 忠成	重任
同上	加藤 勝巳	重任
同上	白鹿 敦己	重任
同上	高安 宏治	重任

### 4. 懇親会

5月21日(木)、総会に続き、恒例の協会懇親レセプションがポルスキ大使のご厚意により、大使公邸で18:30から約2時間に亘り開催された。

ポルスキ大使の挨拶、友國新会長の挨拶、来賓の外務省中南米局長佐藤 悟様の乾杯の音頭で始まり、京

谷弘司タンゴ四重奏団のタンゴ・ライブ演奏の中、会場は総勢155人の参加者の交歓で盛り上がり、盛況に所期の目的を達することが出来ました。



懇親会冒頭 ポルスキ大使ご挨拶



友國会長挨拶





京谷弘司タンゴ・クアルテット

## 5. アルゼンチン・ウィークが盛況に開催

6月2日(火)～6月4日(木)“アルゼンチン・ウィーク”が、セルバンテス文化センター東京、駐日アルゼンチン大使館、10Tango.com(デイエス・タンゴ・コム)の共催で、同文化センター(千代田区六番町2-9)で開催され、アルゼンチンの世界的著名小説家エルネスト・サバト氏の作品の一つ「作家とその亡霊たち」(El escritor y sus Fantomas)の邦訳出版記念講演、フォルクローレ界の大御所、アタウアルパ・ユパンキに捧げる講演とギターコンサート、また、20世紀を代表するアルゼンチン生まれの小説家、詩人ボルヘスのドキュメンタリー上映とアルゼンチン・タンゴのライブがあり、アルゼンチン大使館から大使、公使、書記官はじめ関係者の参加に加え、多数の参加者を得て盛況に催された。

タンゴ・ライブは、来日したピアニストの巨匠ホセ・コランジェロ、歌手のハイロ、フリア・センコ、アルフレド・カセロ等著名のアルゼンチン・アーティストが出演、これに何度もブエノスアイレスに渡り、現地で好評を拍している日本のタンゴ・オーケスタ「アストロリコ」が加わり、会場を魅了した。

6月5日(金)夕には、グランドハイアット東京に於いて「10タンゴ(デイエスタンゴ)・フェスティバル東京」が開催され、これにポルスキ大使からの招待を受けて、当協会より友国会長、木島理事長他役員が出席した。来日中の多数のアルゼンチン・アーティストに小松亮太オーケスタも参加し、大変に内容の濃いすばらしいタンゴ・フェスティバルであった。

## 6. 長田小学校(茨城県境町)「アルゼンチンの日のつどい」

7月3日(金)、長田小学校の恒例行事、「アルゼンチンの日のつどい」が、新任の鈴木校長以下全教諭・児童生徒・PTA関係者主催で、同校で盛大に開催された。

亜国大使館から主賓のポルスキ大使、ロドリゲス一等書記官、大東職員、さらには友好功労者野本氏、地元町長、町議会議長、教育長他多数の来賓が招待され、当協会からも川上理事が招待され出席した。

長田小学校・ア大使館の長期に亘る交流の中、昨年アルゼンチン海軍練習帆船「リベルタ号」横浜港寄港の際、児童(有志)見学招待、毎年2月の6年生の大使館訪問招待など密度の高いもので、今回6回目の学校訪問となる大使に対する児童の人気は高く、午後のイベントでは児童の発案で大使の好きな歌(サザエさん、鳥唄)を発表し、盛大のうえに親しみのこもったイベントに浸る大使はじめ来賓一同の交流の深さに感銘した。

ポルスキ大使は、ご挨拶の際、特に次の点につき言及された。

- (1) 長田小学校の先生、生徒が替っても、長期に亘って変わらぬ交流と友好関係を維持されている関係者の努力を高く評価し、感謝している。長田小学校との繋がりを、地域、教育関係者、児童、PTA関係者に拡大し強い絆となるようにしたい。
- (2) アルゼンチンは来年独立200周年の大事な年を迎え、これに合わせて国内外で重要なイベントが行われる。
- (3) 来年の「アルゼンチンの日のつどい」も、独立200周年に呼応した重要なイベントとしてとらえ、学校、地域協力のもと企画して頂きたい。これに対し、町長、鈴木校長から、行事内容は児童主体で企画したいが、来年は校舎改築予定も入っており、全面的に協力したい旨の発言があった。また、大使より、長田小学校との交流行事についても当協会が参加してくれ心強く感謝している。来年のイベント等への参加、協力もよろしく願いたい旨の要請もあった。



## 7月9日 ブエノスアイレス、独立記念日を祝う

去る7月9日、ブエノスアイレスの「五月通り (Avenida de Mayo)」で、独立記念日を祝う催しが行われた。「五月通り」は、1894年に開設された南米最初の大通りで、今年は115周年にもなるもの。



「五月通り」(本年7月9日撮影)



### 協会ホームページの活用お願い <http://argentina.jp>

アルゼンチンにかかわる興味ある情報やイベント案内を出来るだけタイムリーに会員の皆様にお伝えするように、上記ホームページ (HP) の掲示板に載せることにしております。

掲示板には、誰でも自由に入れますので、どうぞ気軽にご意見など掲示板にお書き込みいただき、協会、会員間の情報交換の場として活用ください。

「イベント案内」「掲示板」への迷惑書き込み防止のため、所定のパスワードを入力して閲覧して頂く方式に変更しております。HPフロント画面から、次の通り行い、ご活用下さい。

- (1) 「イベント案内」、「掲示板」をクリックしますと、「ユーザー名とパスワードが必要です」との認証画面がでます。
- (2) 「ユーザー名」欄および「パスワード」欄の両方に、「llao01」(半角英数)を入力し、「パスワードを記憶する」欄にチェック・マークを入れて、「OK」をクリックする。
- (3) 次回からは、認証画面で「OK」をクリックするだけで閲覧できます。

## 編集長よりの御礼

アルゼンチンは、来年(2010年)が独立200周年に当たります。これに関しまして、ホルヘ・オセラ公使に執筆頂きました。公使には、常日頃から協会に対しご高配を頂き、厚く御礼申し上げます。

フロントページの写真は、前号同様、ブエノスアイレス在住の小木曾モニカさんからご提供頂きましたものを使用させて頂きました。

執筆・原稿につきましては、遠藤建也様、賛助会員の遠矢浩子様にご協力頂きました。

スペイン語のサマリー (Resumen en castellano) は、イレーネ賀集さん(当協会理事)に作成して頂きました。

この場をおかりしまして、皆様のご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

尚、「タンゴ名曲物語(6)」の執筆者、石川浩司理事が、去る6月23日に他界いたしました。永年に亘り当協会の活動に多大のご尽力を頂きました。

謹んで石川理事殿のご冥福をお祈り申し上げます。



## 秋季2009—8月～12月

### 「実用スペイン語」講習のご案内

アルゼンチン人講師によるスペイン語の基礎知識と実用会話能力を習得できる講習。

講習は全てスペイン語で行い、楽しく和やかに進められます。詳細は、同封の資料ご参照。

## 平成21年度 年会費納入のお願い

本年度(平成21年4月1日～平成22年3月31日迄)の年会費のお支払が未だお済みになっていない方は、早めにお振込み戴きますようお願い申し上げます。

個人正会員：1万円

個人賛助会員：5千円

本会報のデザイン、記事の無断転用はお断りします。

## 日本アルゼンチン協会会報 第54号 2009年7月23日発行

発行人 木島 輝夫 (当協会副会長兼理事長)  
編集長 加藤 勝巳 (当協会常務理事)  
編集発行 社団法人 日本アルゼンチン協会  
〒105-0004 東京都港区新橋1-17-1  
電話：03-3501-4684  
FAX：03-3595-3932  
E-mail：argentina@nifty.com  
URL：http://www.argentina.jp

印刷 株式会社 アイデア・インスティテュート